

授業科目 NO. 811 母子包括支援実習

Maternal and Child Care Practicum

授 業 の 形 態 : 実習

単位数 (時間数) : 2 単位 (90 時間)

開講年次・学期 : 4 年次・前後期

必修・選択の別 : 選択・助産師選択コース必修

キ ー ワ ー ド : 地域の母子保健活動、開業助産師の役割、地域での助産ケア、地域との連携、

1 金沢医科大学看護学部への到達目標 (全科目共通です)

- ① 豊かな人間性と倫理観
- ② 看護学の知識と技術、及び実践力
- ③ 地域志向を視野に入れた専門性の獲得
- ④ 生涯学習能力
- ⑤ 国際的視野の獲得

2 学 修 目 標

1) 一般目標 (GIO)

地域で生活する母子と家族を対象とした母子保健活動の実践を学び、母子保健制度および地域母子保健事業について理解する。さらに、助産院や自治体の保健センターにおける活動を通して、妊娠前から育児期までの継続的・包括的な母子支援における助産師の役割と多職種連携について理解を深める。

2) 行動目標 (SB0) ※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学看護学部への到達目標との関連を示す。

- (1) 地域で実施されている母子保健事業の種類と内容、その目的、方法について説明できる。(②③)
- (2) 助産院における妊娠前から子育て期までの継続・包括的な母子支援活動の実践について説明できる。(①②③)
- (3) 助産院の管理・運営の実践について説明できる。(②③)
- (4) 地域における母子包括支援体制を理解し、助産師の役割と多職種連携について説明できる。(①②③)
- (5) 地域母子保健における助産師の専門性と役割について理解し説明できる。(①②③)
- (6) 助産学生として主体的かつ真摯な態度で実習に取り組むことができる。(①②③)

3 学 修 内 容

実習の内容は、実習要項に示す。

評価

評価項目	評価割合
定期試験成績	
実習成績	70%
レポート	20%
授業態度	
小テスト	
口頭試問	
その他	10%
合計	100%

(特記事項)

その他の 10%は学びの共有の場での意見交換、

5 教育担当者

科目責任者： 三反崎 宏美

講師 三反崎 宏美（母性看護学・助産学）
 助手 丸 山 早紀（母性看護学・助産学）

6 教育担当者の実務経験

担当教員は助産師としての実務経験を有している。

7 教科書

- 1) 我部山キヨ子他（編）：助産学講座 1 助産学概論、医学書院
- 2) 我部山キヨ子：助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健、医学書院
- 3) 我部山キヨ子他（編）：助産学講座 10 助産管理、医学書院
- 4) 福井トシ子：助産師業務要覧 第 4 版 2026 年度版Ⅱ 実践編、日本看護協会出版会

8 推薦参考書

- 1) 福井トシ子、井本寛子（編）：新版 助産師業務要覧Ⅰ 基礎編、日本看護協会出版会
- 2) 福井トシ子、井本寛子（編）：新版 助産師業務要覧Ⅲ アドバンス編、日本看護協会出版会
- 3) わが国の母子保健 令和 3 年、母子衛生研究会（最新）
- 4) 国民衛生の動向 2025/2026. 一般財団法人厚生労働統計協会

9 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- 1) 既習の助産学関連の講義資料及び技術について復習しておくこと。事前学習、事後学修として 120 分程度の時間をかけることが望ましい。特に地域における母子保健や助産管理・業務に必要な知識・技術を十分復習して臨むこと。
- 2) オリエンテーションまでに必ず実習要項を熟読し準備学修をして臨むこと。

- 3) 医療法で定められている、助産所の構造設備の基準概要、入所妊婦等の制限、院内掲示義務、嘱託医師の設置等について学修し、実際の助産所にてその内容を確認・質問できるようノートにまとめておくこと。

10 課題（試験やレポート等）に関するフィードバック

- 1) 提出されたレポートについては、必要に応じてコメントする。
- 2) 実習に関しては、評価表を基に到達度や課題をフィードバックする。

11 履修上の注意事項

- 1) 疑問点や困っていることは自ら表現し、主体的に課題を明確化すること。そして、課題解決に向けた姿勢で実習を臨むこと。
- 2) カンファレンスは、メンバー間で協力し、積極的な姿勢で取り組むこと。
- 3) 健康管理には十分注意し、看護学部臨地実習の要項に準じた対応を行うこと。
- 4) 助産学生として自覚と責任のある行動をとり、看護学部臨地実習の要項「実習に関わる個人情報および実習施設に関する情報(機密保持)等の取り扱い」を理解し、厳守の上、実習に臨むこと。

12 オフィスアワー等

担当教員が実習施設に出向いた時に質問を受ける。それ以外の時間帯は、実習担当教員が随時質問を受ける。ただし事前にメール連絡等することが望ましい。

三反崎 E-mail : mitasaki@kanazawa-med.ac.jp

丸山 E-mail : maru-sk@kanazawa-med.ac.jp